

幼児における副助詞に対する接続形式の習得時期の差異

東寺祐亮（日本文理大学）

1. はじめに

副助詞には、(1a)のように体言と接続するだけでなく、(1b)のように動詞等の用言と接続する形式を持つ語（ダケ、クライ・グライ、バカリ・バツカリ等）がある。成人の文法では副助詞に対して体言接続も用言接続も使用される。

- (1) a. 体言接続：宿題はあと国語だけだ。
- b. 用言接続：あとは国語の宿題をするだけだ。

ダケを例にとると、大久保 (1967) は「パパダケ ブーブージドウシャ ノンノ？(1;11)」(大久保 1967: 92, 下線は著者) という幼児のダケの使用例が 1;11 (1 歳 11 ヶ月, 「年;月」で記載する) に観察されたことを指摘している。また、同時期に「パパト アツカラ ダイジョウブ。(1;11)」(大久保 1967: 92, 下線は著者) という、用言と接続している接続助詞カラの使用例が観察されることも指摘している。ダケなどの副助詞の用言接続も同時期に習得されるのだろうか。本発表では、幼児は、体言接続と用言接続の両方を持つ副助詞の使用において、用言接続形式よりも体言接続が先行する傾向があるということを示す。

先行研究において、幼児の副助詞の使用について接続形式の習得時期の差異に着目した記述は管見の限りない。永野 (1959: 391-393) は、2 歳代に副助詞の使用が観察され始めることを指摘し、助詞の習得としては終助詞・格助詞が早く、次いで接続助詞が習得され、その後副助詞が習得される傾向を指摘している。また、大久保 (1967: 93-100) は、ダケが 1;11 に、グライが 2;5 に、マデが 2;1 に、バカリ・バツカリ・バツカシが 2;11 に、シカが 3;1 に、ナドが 4;0 に発話され始めたことを指摘している。高橋 (1975: 167) は、ダケの用言接続形式について年少児 (4;2) の「オネエチャンノ ジミルダケデカケルノ」という発話や、バカリについて年長児 (6;6) の「ジブンデヨムバツカリダモン」という発話を記述している。しかし、いずれの研究も副助詞に対する接続形式の習得時期の差異に関する詳しい記述はない。

2. 調査方法と調査結果

2.1. 調査方法

本研究では、CHILDES データベース (MacWhinney 2000) に収録されている Ogawa コーパス (Ogawa 2016) と Noji コーパス (Noji 1973-77) の 2 人の幼児 (Ogawa コーパス: Ayumi, Noji コーパス: Sumihare) を対象として、幼児の副助詞の使用における接続形式を調査した。調査データは CLAN プログラムを使用して、Ayumi (Ogawa 2016) と Sumihare (Noji 1973-77) の全ファイル (Ayumi 00900-60100, Sumihare 00000-61100) を対象に、副助

詞（ダケ、クライ・グライ、バカリ・バツカリ、マデ、シカ、ホド、ナド、ナリ）の発話頻度と発話行を検索した。その検索結果に対して手作業で副助詞の使用例を抽出し、歌の一部や親の発話の繰り返しを除外した。1度の発話で繰り返し調査対象語を発話している場合（たとえば(2b)）はその文全体で頻度1として加算した。

分類するにあたって、副助詞が名詞・代名詞・数詞など自立語で活用がなく主語になる語と接続している場合を体言接続、動詞・形容詞・形容動詞など自立語で活用があり述語になる語と接続している場合を用言接続とした（用言、体言の定義は森山・渋谷 2020: 110による）。副詞・助動詞・助詞との接続、誤用についてはその他とした。なお、以下の発話の下線は筆者によるものである。

2.2. ダケ

ダケについて、Ayumi (Ogawa 2016) においては2;11 から体言接続の使用例 ((2a)) が観察され、3;02 から用言接続の使用例 ((3a)) が観察される。Sumihare (Noji 1973-77) においても、2;01 から体言接続の使用例 ((2b)) が観察され、2;05 から用言接続の使用例 ((3b)) が観察される。それぞれの幼児の使用例累計は図1、図2に示す。

(2) 体言接続

- a. CHI: お茶だけ持って行くの? (Ayumi, 2;11.00)
- b. CHI: おちゃだけ, おちゃだけ, おちゃだけ。(Sumihare, 2;01.07)

(3) 用言接続

- a. CHI: 飲んだだけだよ。(Ayumi, 3;02.00)
- b. CHI: みるだけ。(Sumihare, 2;05.07)

表1 ダケにおける体言接続・用言接続の発話頻度と初出月齢

話者	体言接続		用言接続		その他（副詞・助詞等）	
	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢
Ayumi (Ogawa 2016)	124	2;11.00	79	3;02.00	43	3;06.00
Sumihare (Noji 1973-77)	90	2;01.07	17	2;05.07	9	2;03.07

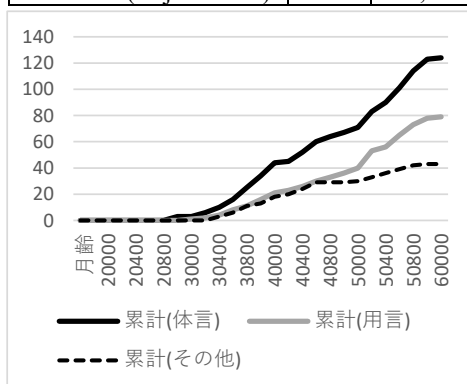


図1 ダケの体言接続・用言接続・その他の累計数 (Ayumi)

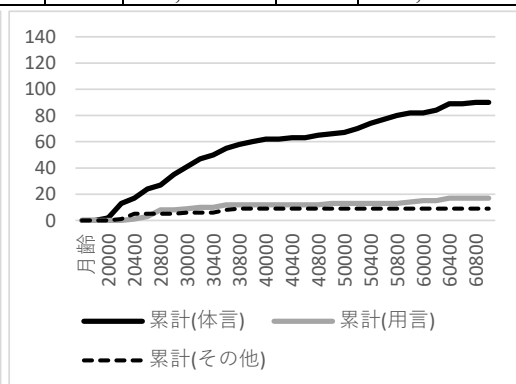


図2 ダケの体言接続・用言接続・その他の累計数 (Sumihare)

2.3. クライ・グライ

クライ・グライについて、Ayumi (Ogawa 2016) においては 3;01 から体言接続の使用例 ((4a)) が観察され、4;02 から用言接続の使用例 ((5a)) が観察される。Sumihare (Noji 1973-77) においては 2;07 から体言接続の使用例 ((4b)) が観察され、4;00 から用言接続の使用例 ((5b)) が観察される。なお、クライという形式とグライという形式については、明確な使い分けがなされていると判別できなかったため、異形態として集計している。それぞれの幼児の使用例累計は図3、図4に示す。

(4) 体言接続

- a. CHI: あと十分くらいかかるの。 (Ayumi, 3;01:00)
- b. CHI: ぼくみつつくらいたべる。 (Sumihare, 2;07:21)

(5) 用言接続

- a. CHI: 汗かくくらい大変だよ。 (Ayumi, 4;02:00)
- b. CHI: 重いくらいいっぱいあるんでー。 (Sumihare, 4;00:00)

表2 クライ・グライにおける体言接続・用言接続の発話頻度と初出月齢

話者	体言接続		用言接続		その他(副詞・助詞等)	
	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢
Ayumi (Ogawa 2016)	101	3;01.00	15	4;02.00	10	3;10.00
Sumihare (Noji 1973-77)	26	2;07.21	2	4;00.00	13	2;08.00

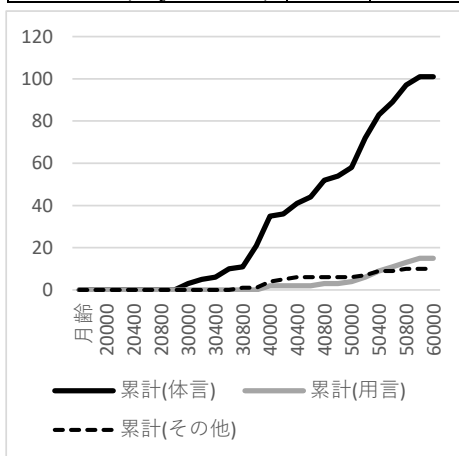


図3 クライ・グライの体言接続・用言接続・その他の累計数 (Ayumi)

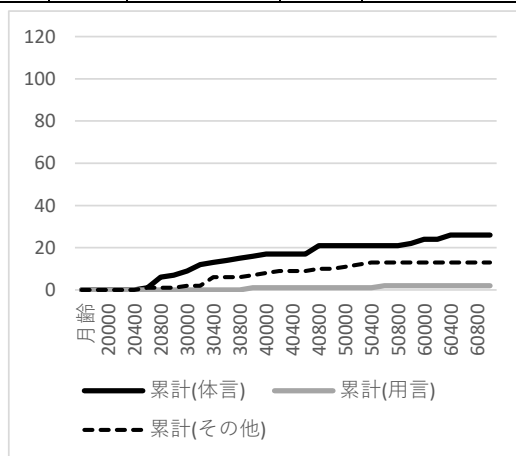


図4 クライ・グライの体言接続・用言接続・その他の累計数 (Sumihare)

2.4. バカリ・バッカリ

バカリ・バッカリについて、Ayumi (Ogawa 2016) においては 2;11 から体言接続の使用例 ((6a)) が観察され、4;01 から用言接続の使用例 ((7a)) が観察される。Sumihare (Noji 1973-

77) においても、2;00 から体言接続の使用例 ((6b)) が観察され、2;05 から用言接続の使用例 ((7b)) が観察される。なお、バカリという形式とバツカリという形式においても、明確な使い分けがなされていると判別できなかつたため、異形態として集計している。それぞれの幼児の使用例累計は図 5、図 6 に示す。

(6) 体言接続

- a. CHI: お風呂ばかりだね。 (Ayumi, 2;11:00)
- b. CHI: しっこばかり (Sumihare, 2;00:00)

(7) 用言接続

- a. CHI: お腹すいてばかりばかりだ。 (Ayumi, 4;01:00)
- b. CHI: ていちゃんが遊んでばかりのにいかん。(Sumihare, 2;05:21)

表 3 バカリ・バツカリにおける体言接続・用言接続の発話頻度と初出月齢

話者	体言接続		用言接続		その他(副詞・助詞等)	
	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢
Ayumi (Ogawa 2016)	35	2;11.00	15	4;01.00	2	3;11.00
Sumihare (Noji 1973-77)	23	2;00.00	8	2;05.21	2	3;01.00

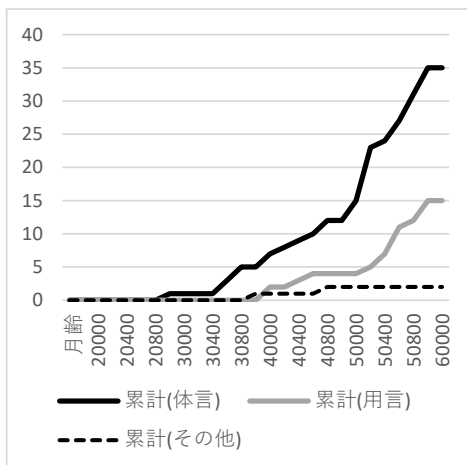


図 5 バカリ・バツカリの体言接続・用言接続・その他の累計数 (Ayumi)

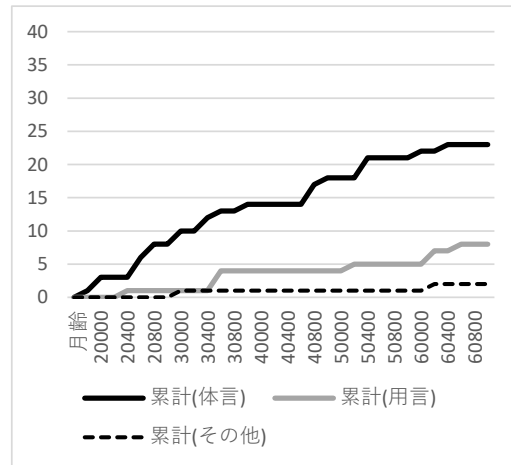


図 6 バカリ・バツカリの体言接続・用言接続・その他の累計数 (Sumihare)

2.5. マデ

マデについて、Ayumi (Ogawa 2016) においては 2;09 から体言接続の使用例 ((8a)) が観察され、3;09 から用言接続の使用例 ((9a)) が観察される。Sumihare (Noji 1973-77) においても、1;11 から体言接続の使用例 ((8b)) が観察され、2;02 から用言接続の使用例 ((9b)) が観察される。なお、Sumihare (Noji 1973-77) の用言接続の使用例は、53 例中 32 例 (約 60%) が「行ったよ遠くまで (Sumihare, 2;02.14)」のような「遠くまで」であり、生産的

に使用していない時期がある可能性がある。それぞれの幼児の使用例累計は図 7、図 8 に示す。

(8) 体言接続

a. CHI: 上までジャンプ。 (Ayumi, 2;09.00)

b. CHI: 天まででああれ。¹ (Sumihare, 1;11.07)

(9) 用言接続

a. CHI: できるまで歩美ちゃん、ふーふーふーって遊んでみる。 (Ayumi, 3;09.00)

b. CHI: しゅむまでまってるちゃいねねー。 (Sumihare, 2;02.14)

表 4 マデにおける体言接続・用言接続の発話頻度と初出月齢

話者	体言接続		用言接続		その他(副詞・助詞等)	
	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢
Ayumi (Ogawa 2016)	99	2;09.00	10	3;09.00	10	4;02.00
Sumihare (Noji 1973-77)	117	1;11.07	53	2;02.14	8	2;02.14

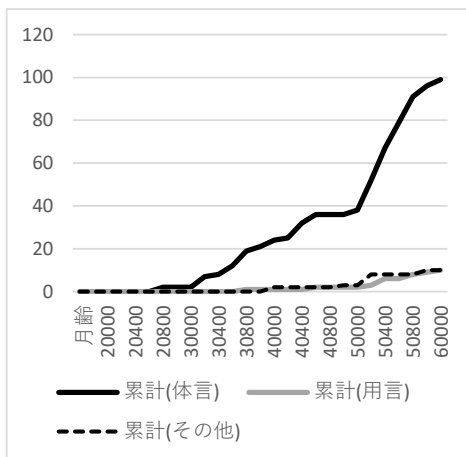


図 7 マデの体言接続・用言接続・その他の累計数 (Ayumi)

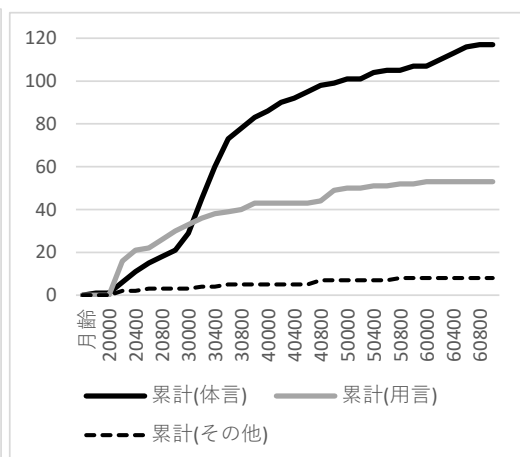


図 8 クライ・グライの体言接続・用言接続・その他の累計数 (Sumihare)

¹ Sumihare (Noji 1973-77) は 1;11.00 に「たこ天まであげ。(Sumihare, 1;11.00)」という発話がある。この発話については Noji (1973-77) に歌の一節であることを推測させる説明がある。(8b)については Noji (1973-77) の説明に具体的な記述はないが、「たこ天まで揚がれ」という類似した表現であるため歌の一節である可能性がある。(8b)の次に現れる例は「どこまで行くん？(Sumihare, 2;02.14)」で、用言接続と同月齢である。

2.6. シカ

シカについて、Ayumi (Ogawa 2016) においては 2;08 から体言接続の使用例 ((10a)) が観察され、3;09 から用言接続の使用例 ((11)) が観察される。一方、Sumihare (Noji 1973-77) においては用言接続が観察されず、体言接続 ((10b)) は 4:03 から観察された。しかし、頻度は 11 例で、Ayumi (Ogawa 2016) と比較して少数であった。

(10) 体言接続

- a. *CHI: 一回しかない。 (Ayumi, 2;08.00)
 b. *CHI: しとつしかおらんのんよう。 (Sumihare, 4;03.00)

(11) 用言接続

- *CHI: 作ったの、やっぱり作るしかなかったから？ (Ayumi, 3;09.00)

表 5 シカにおける体言接続・用言接続の発話頻度と初出月齢

話者	体言接続		用言接続		その他 (副詞・助詞等)	
	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢
Ayumi (Ogawa 2016)	106	2;08.00	31	3;09.00	36	3;03.00
Sumihare (Noji 1973-77)	3	4;03.00	0	-	8 ²	2;09.00

2.7. ホド・ナド・ナリ

ホド・ナド・ナリについては用例が少数、あるいは、観察されなかった。文語的で会話における頻度が少なくインプットが少ないためであると考えられる。ホドについて、Ayumi (Ogawa 2016) においては 3;11 から体言接続の使用例 ((12a)) が 1 例のみ観察される。Sumihare (Noji 1973-77) において 4;00 から体言接続の使用例 ((12b)) が観察され、5;11 から用言接続の使用例 ((13)) が観察されるが、合計 5 例のみである。

(12) 体言接続

- a. *CHI: 歩美ちゃんこれ食べないよ、日本のほどおいしくないから。 (Ayumi, 3;11.00)
 b. *CHI: 三つほど頂戴。 (Sumihare, 4;00.00)

(13) 用言接続

- *CHI: なんぼでも父ちゃんの好きなほど取って頂戴。 (Sumihare, 5;11.00)

² 表 5 の Sumihare (Noji 1973-77) のその他 8 例中 5 例は「こっこさんたまたますこしかない。(Sumihare, 2;09.00)」のような「少ししか」である。

表6 ホドにおける体言接続・用言接続の発話頻度と初出月齢

話者	体言接続		用言接続		その他（副詞・助詞等）	
	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢
Ayumi (Ogawa 2016)	1	3;11.00	0	-	0	-
Sumihare (Noji 1973-77)	3	4;00.00	1	5;11.00	1	4;06.00

ナドについては、Sumihare (Noji 1973-77) において2例のみ体言接続で観察された((14))。

(14) 体言接続

*CHI: 墜落言うたらね飛行機などがねこうなってこんなになることよ。

(Sumihare, 5;02.00)

表9 ナドにおける体言接続・用言接続の発話頻度と初出月齢

話者	体言接続		用言接続		その他（副詞・助詞等）	
	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢
Ayumi (Ogawa 2016)	0	-	0	-	0	-
Sumihare (Noji 1973-77)	2	5;02.00	0	-	0	-

ナリについては Ayumi (Ogawa 2016) でも Sumihare (Noji 1973-77) でも観察されなかった。

3. 結論と課題

以上の調査結果から、幼児は副助詞の接続において体言接続を先行して使用し始める傾向があることが明らかになった。これは、副助詞の使用において、体言接続から用言接続への移行に期間があるということである。動詞等と接続する接続助詞のカラについて、先行研究は「パバト アッタカラ ダイジョウブ。(1;11)」(大久保 1967: 92, 下線は筆者)、「オオキイカラトドク。(2;3)」(永野 1959: 390, 下線は筆者)という使用例を示しており、2歳前後からカラを使用し始めると考えられる。そのため、副助詞の接続形式において体言接続が先行し、用言接続が遅れる事実は、副助詞と接続助詞の文法習得の過程が異なることを示している。

本調査データは、今後複数の観点から検討する必要がある。第一に、用言接続のどのような構造構築が習得を遅らせているのかを明らかにする必要がある。第二に、各副助詞においてどのような用法の習得が先行するかを明らかにする必要がある。たとえば、Ayumi (Ogawa 2016) のクライ・グライでは、(4a)のほか、「八時くらいかなあ？(Ayumi, 3;05.00)」など概数用法が先行する傾向が見られた。第三に、その他データに関しても観察・分析を行う必要がある。一部の副助詞においてその他のデータに特徴が見られたためである。たとえば、Ayumi (Ogawa 2016) のシカでその他に分類されている36例中25例は、「子供だけしか買えない。(Ayumi, 3;09.00)」に見られるダケシカや、クライシカ、ニシカといっ

た「助詞+シカ」であった。一方, Ayumi(Ogawa 2016) の他の副助詞における助詞接続の使用例はシカほど多くない。これらの観察・分析については今後の課題である。

表 10 幼児の体言接続・用言接続の発話頻度と初出時期

話者	副助詞	体言接続		用言接続		その他(副詞・助詞等)	
		頻度	初出月齢	頻度	初出月齢	頻度	初出月齢
A y u m i	だけ	124	2;11.00	79	3;02.00	43	3;06.00
	くらい・ぐらい	101	3;01.00	15	4;02.00	10	3;10.00
	ばかり・ばっかり	35	2;11.00	15	4;01.00	2	3;11.00
	まで	99	2;09.00	10	3;09.00	10	4;02.00
	しか	106	2;08.00	31	3;09.00	36	3;03.00
	ほど	1	3;11.00	0	-	0	-
	など	0	-	0	-	0	-
	なり	0	-	0	-	0	-
S u m i h a r e	だけ	90	2;01.07	17	2;05.07	9	2;03.07
	くらい・ぐらい	26	2;07.21	2	4;00.00	13	2;08.00
	ばかり・ばっかり	23	2;00.00	8	2;05.21	2	3;01.00
	まで	117	1;11.07	53	2;02.14	8	2;02.14
	しか	3	4;03.00	0	-	8	2;09.00
	ほど	3	4;00.00	1	5;11.00	1	4;06.00
	など	2	5;02.00	0	-	0	-
	なり	0	-	0	-	0	-

参照文献

- 大久保愛 (1967) 『幼児言語の発達』, 東京堂出版.
- 高橋太郎 (1975) 「幼児語の形態論的な分析—動詞・形容詞・述語名詞—」 『国立国語研究所報告』 55号, 国立国語研究所.
- 永野賢 (1959) 「幼児の言語発達について: 主として助詞の習得過程を中心に」 『ことばの研究 1』, pp.383-396. (国立国語研究所論集 <http://doi.org/10.15084/00001725>)
- 森山卓郎・渋谷勝己 (2020) 『明解日本語学辞典』, 三省堂.
- MacWhinney, Brian. (2000) *The CHILDES Project: Tools for analyzing talk*. Third Edition. Mahwah, N.J.: Lawrence Erlbaum Associates.
- Noji, Junya. (1973-77) *Yooji no gengo seikatsu no jittai I-IV*. Bunka Hyoron Shuppan.
- Ogawa, Yoshiki. (2016) *Ogawa Corpus*. Pittsburgh, PA: TalkBank. doi:10.21415/T5H314